

きゅうしゅう



編集・発行 九州防衛局 総務部 福岡市博多区博多駅東2丁目10-7 福岡第2合同庁舎内 TEL092-483-8811

新西海橋(手前)、西海橋(奥)
(長崎県西海市)



米海軍佐世保基地



目次 CONTENTS

- 1 米海軍佐世保基地紹介
- 2 自治体紹介～長崎県西海市～
- 3 九州防衛局業務紹介
- 4 インフォメーション

kyusyu



1 米海軍佐世保基地紹介

米海軍佐世保基地司令官挨拶



(Commander Fleet Activities Sasebo)
米海軍佐世保基地司令官
チャールズ W. ロック大佐

It is indeed my honor and pleasure to offer some comments for publication to our friends at the Kyushu Defense Bureau. In truth, this is quite easy for me to do! My experience in working with KDB over these past two years is one of personal and professional respect and admiration. First with Mr. Yukinori Hirose and now with Mr. Akihiro Tsuchimichi as directors, our meetings and communications have been open, honest and with the mutual goal of building upon an already solid relationship.

I would be remiss not to mention KDB's role in facilitating, over the course of many months, the transition from Sakibe to the U.S. Navy's unmatched LCAC facility at Yokose. With KDB's lead, they, Saikai city and CFAS participated in a series of 3-party talks that brought all together in addressing issues and questions to the eventual satisfaction of all sides.

In my 25 years of Naval service I have never served at a location—in the U.S. or overseas—with a better relationship between the military base and the host

population. Through the U.S. "Friendship Blossoms Initiative" to provide 3,000 dogwood trees to Japan, the base and American Consulate Fukuoka assisted in obtaining trees planted in April in Sasebo and Saikai cities, a symbolic gesture as 2012 was the 100th anniversary of Japan's gift of 3,000 cherry trees to the U.S. At CFAS we work side by side with almost 1,700 Japanese employees and indeed, we genuinely feel like members of the community. I would offer that KDB has had a role creating this environment we enjoy.

On behalf of the 5,200 U.S. citizens temporarily calling Sasebo "home," I extend my thanks and gratitude to KDB and the citizens of Sasebo and Saikai City.



■今回、九州防衛局のご友人の皆様へご挨拶できる機会を賜りまして大変光栄でうれしく思います。実は、こうした事は私の得意とするところであり、この2年間、九州防衛局の皆様と一緒に仕事をしてきて、個人的にもプロとしても敬意と称賛の念を禁じえません。

一緒にお仕事をした廣瀬行成前局長、現在の樋道明宏局長とは、オープンで誠実、又、強固な関係を更に深化させて行くという共通の目標に向かって、ミーティングや意見交換をする事ができました。

米海軍のLCAC施設を崎辺地区から比類なき性能を誇る横瀬地区へ移転する為、九州防衛局が長い年月をかけて尽力されたことにここで触れないわけにはいきません。彼らのリードのもと、九州防衛局、西海市、米海軍佐世保基地の間で協議を行い、問題に対処し全ての面において満足のいくものにするよう協力してきました。



私の25年の米海軍経歴で、軍と地域との関係がこんなに良い任務地は、アメリカ本国でも海外でもありませんでした。2012年が日本からアメリカへ3000本の桜の木が贈られて100周年だったことを記念して、アメリカから日本へ3000本のハナミズキの木を贈るプロジェクト「友好の木イニシアティブ」がありました。これを通して、佐世保基地と福岡アメリカ領事館が支援して4月に佐世保市と西海市にハナミズキを植樹しました。米海軍佐世保基地では、約1,700人の日本人従業員と一緒に仕事をしており、私たち米海軍関係者は、地域の一員であると心から感じています。この環境を作っているのは、九州防衛局の皆様のお陰であると思っています。佐世保を「故郷」と呼んでいる5,200名のアメリカ人を代表致しまして、九州防衛局、佐世保市民そして西海市民の皆様へ、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

基地内紹介

■ 基地司令部



1916年に港湾部第一棟として建設され、現在は基地司令部として使用されています。

■ ハーバービュークラブ



1981年に将校クラブを建て替え、現在はコーヒーショップやレストランが入っており、日常的に食事などが楽しめる施設です。

■ 赤レンガ倉庫群



1888年から1924年に建設された赤レンガ倉庫群は佐世保海軍補給部の一部として使用されており、2002年に佐世保市景観デザイン賞を受賞しました。



所属艦船紹介

■ 掃海艦

機雷を探知・除去して航路の安全を確保することを任務としています。



掃海艦 ディフェンダー



掃海艦 バトリオット



掃海艦 アヴェンジャー



掃海艦 ウォリアー

■ 揚陸艦

装備や補給品と一緒に人員を搬送し、岸壁等に頼らず、上陸作戦の能力を持つ艦のことをいいます。



強襲揚陸艦 ボノムリシャル



ドック型輸送揚陸艦 デンバー



ドック型揚陸艦 ジャーマンタウン



ドック型揚陸艦 トーテューガ

横瀬貯油所LCAC施設 オープンセレモニー

3月15日、米海軍横瀬貯油所において、新しいLCAC施設の運用開始を祝うオープンセレモニーが佐世保米海軍司令部主催により開催され、会場となったLCAC施設内には、LCACの実機も展示されました。

LCACは、それまで佐世保市に所在する崎辺海軍補助施設において暫定的に運用され、駐機及び軽微なメンテナンスが行われてきましたが、周辺住民の方々への騒音が問題になり、また、用地の狭隘さ等から十分な機能を有していなかったことから、西海市に所在する横瀬貯油所内に約13ヘクタール（うち埋立地が6ヘクタール）の面積をもって、駐機場とエンジンテストを行う試運転場、整備格納庫、倉庫、管理棟などが整備されました。

このLCAC施設の整備事業は、平成16年度に埋立工事を着工、その後、平成24年3月末に全ての施設が完成し、本年2月に日米間の手続きを経て米側へ提供されました。

式典は、日米両国国歌の吹奏から始まり、米海軍佐世保基地ロック司令官からは、本施設を運用する現地の米海軍司令官として「横瀬LCAC施設の運用を成功させることが使命」と意気込みが示され、また、クロイド在日米海軍司令官からは、「この施設は、米軍の即応態勢を高めるため、類を見ないような能力を発揮していくもの」、「更なる日米の同盟関係の強化にも繋がる」と、この施設の重要性について強調する挨拶がなされました。



在日米海軍司令官
クロイド少将



リボンカットを行う関係者



横瀬LCAC施設オープンセレモニー
日米両国国歌吹奏



樋道明宏九州防衛局長



米海軍佐世保基地司令官
ロック大佐

LCACとは・・・

■ 概要

LCAC(Landing Craft Air Cushion)は、迅速に海岸から上陸できる水陸両用上陸用舟艇で、洋上から陸上へ車両や器材、貨物、人員の輸送に用いられ、世界の海岸線の70パーセント以上に着岸させることができると言われています。



■ 諸元

全長・・・26.4メートル
 全幅・・・14.3メートル
 出力・・・16,000馬力
 最高速度・・・約74km/h
 満載排水量・・・約182トン
 行動範囲・・・約320km(最高速度時)
 積載量・・・60トン
 エンジン・・・ガスタービン×4基
 乗員・・・5名



2 自治体紹介

長崎県西海市



西海市長
田中隆一(たなか たかいち)

つながる
ひろがる
未来へつづく
健康の里さいかい



西海市の観光マスコット
「ゆで☆(ぼし) 大ちゃん」(左)と「さいかいタンギーくん」(右)

市長あいさつ

平成17年4月1日に西彼町、西海町、大島町、崎戸町、大瀬戸町の5つの町が合併して誕生した西海市は、長崎市と佐世保市の間に位置する人口約3万人の自治体です。

西海市では、今、「自然」「食」「歴史・文化」を生かしたまちづくり、西海市の情報発信の上からも重要な旧長崎オランダ村の再生既存の観光資源を活用し、近隣自治体と連携したまちづくりなどを積極的に推進しています。

西海市をより多くの方に知っていただき、訪れていただくため、毎年、西海市自慢の食材を使った「西海大鍋まつり」、地元産の新鮮な魚や肉などを使った「さいかい丼フェア」などを開催しています。

また、西海市に夏の訪れを告げる「大瀬戸ペーロン大会」、全国各地から“鉄人”が集い、スイム(水泳)、バイク(自転車)、ランの3種目で熱い戦いが繰り広げられる「長崎西海トライアスロン大会」が開催されています。

そのほか、崎戸町の北緯33度から見る夕日、国指定文化財の七ツ釜鍾乳洞、県指定文化財である南蛮船来航の地など、西海市には、たくさんのお見どころがございます。



■長崎西海トライアスロン大会

全国から“鉄人”が集い、熱い戦いを繰り広げます。今年、7月14日に開催されます。



■西海市自慢の食材を使った「西海大鍋まつり」

西海市自慢の食材をふんだんに使っています。



■大瀬戸ペーロン大会

今年の大会は、50回目の記念大会。7月7日に開催されます。

■地域住民と米海軍佐世保基地との積極的な交流

西海市には、総貯油量最大43万キロリットルの米海軍補給用燃料貯油基地が整備されているほか、平成24年3月には、12機のLCACが駐機可能な駐機場、エンジンテストを行う試運転場、整備格納庫等が完成しました。

地域住民と米海軍佐世保基地は、地元保育所での防火教室、第7艦隊バンドコンサート、地区住民との親善ソフトボール大会の開催など、積極的な交流を行い、良好な関係を築いています。

また、4月26日には、在福岡アメリカ領事館広報担当領事、佐世保基地司令官のご出席のもと、地元の横瀬浦公園に日米友好親善のシンボルとしてハナミズキの苗木40本を植樹しました。

今後とも米海軍と西海市民との良好な関係を保ち、より良いまちづくりを推進してまいります。



■横瀬地区住民とのソフトボール大会

横瀬浦公園での米海軍佐世保基地と横瀬住民との親善ソフトボール大会(平成24年10月14日に開催し、7回目を迎えました。)

③ 九州防衛局

長崎防衛支局

■ 長崎防衛支局は、長崎市内に所在し、防衛省（装備施設本部）が契約した調達品及び役務に係る監督・検査、原価監査等の契約の履行に関することを主要な業務としており、長崎県のみならず九州全域と山口県下関市を管轄しています。
 下の図は、主な調達品とその製造場所を示したもので、各地で製造されている多種多様な調達品を所掌していることがご理解いただけると思います。



業務紹介

■長崎防衛支局
〒850-0862
長崎県長崎市出島町2-25
TEL095-825-5303



護衛艦の建造と監督・検査

護衛艦の建造も一般の鋼鉄製大型船舶の建造と同様に、ブロック建造といわれる方法で実施されます。これは造船所内の組立工場で、船体のかたまりであるブロックを製造し、船台(ドック)で各ブロックを結合していきます。同支局の検査官は、ブロックの中に入り込んで、溶接、水密等の監督・検査も行っています。



ブロック搭載開始～完了



命名進水式



すべてのブロックの搭載が完了すると、いよいよ進水となり、防衛省から艦名が命名され進水します。この命名進水式は、一般の方々も多く見学に来られ厳粛かつ華やかに行われます。なお、検査官は、外の華やかな雰囲気から離れ、進水する艦艇の中で漏水等の異状がないかどうか検査を地道に行っています。

進水後には、主要な搭載装備品のぎ装(※)が行われます。特に、武器器材のぎ装は、高い精度等が要求されます。※ぎ装とは、船体が完成して就航に必要な様々な装備を施すことをいいます。

5インチ砲搭載



検査風景



引渡式



海上公試



護衛艦「てるづき」引渡式(受渡書授受)
(左:左藤防衛大臣政務官、
右:三菱重工業(株)大宮取締役社長(当時))

すべての検査に合格すれば、いよいよ防衛省に引き渡され海上自衛隊の艦艇として就役します。同支局の検査官の業務は、引渡をもって終了します。そして、就役した艦艇を見送り...

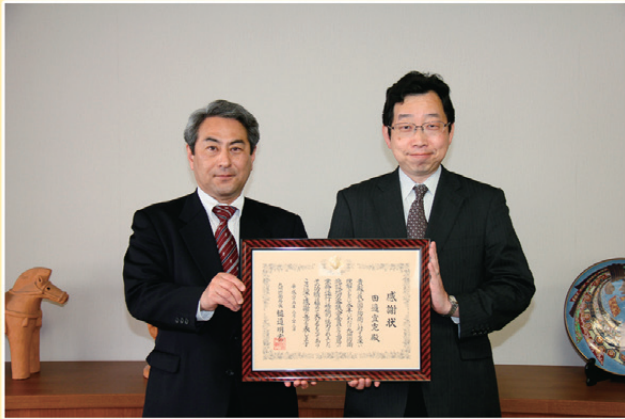
ぎ装工事がほぼ終了すると、船体、機関、電気及び武器が要求どおりの性能を有しているかを検査するための海上公試(※)が行われます。海上公試では、艦を走らせ、機器を作動させるなど、様々な検査を行います。※海上公試とは、船舶建造の最終段階で行う性能試験のことをいいます。



I wish you a pleasant voyage.
(ご安航を祈る)

4 インフォメーション

感謝状贈呈 ～前防衛施設地方審議会委員～



田邊宜克氏（左）と榎道明宏九州防衛局長（右）



平山和典氏（左）と榎道明宏九州防衛局長（右）

- 3月22日、5月10日九州防衛局において、九州防衛施設地方審議会委員として永年にわたりご尽力いただいた、田邊宜克氏、平山和典氏に対し、榎道明宏九州防衛局長から感謝状を贈呈いたしました。両氏は平成15年から約10年間委員として、我が国の防衛に対する深い理解のもとに、その豊富な経験から審議会の円滑な運営に多大な貢献をされました。今回の感謝状は、両氏のこれまでのご功績に対し当局の深い感謝の意を表するものです。

周辺環境整備事業担当者会議の開催

- 5月9日（木）福岡第2合同庁舎で、防衛施設周辺地域の生活環境等を整備することを目的とした事業（いわゆる周辺環境整備事業）に関係する地方自治体担当者との会議を開催しました。

本会議は、これらの事業の法律（「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」及び「駐留軍等の再編の円滑な実施に関する特別措置法」）等による制度内容の説明、また、各種事業（障害防止、一般助成、道路、調整交付金、再編交付金）を執行する上での基本的な留意点の説明・確認を行い九州防衛局管内における補助金等業務の適切な執行を図ることを目的として開催したものです。

会議は、これら事業を所掌している企画部長の開会の挨拶の後、周辺環境整備課長及び同課担当者から説明を行う形で進行了ました。

本会議は、周辺環境整備事業に携わる35の地方自治体の担当者158名が参加され、熱のこもった盛り多なものとなりました。



会議の様子



説明を行う当局担当者

九州防衛局では不測の事態に対応するため、夜間・休日を問わず連絡体制を確保しております。

夜間及び休日の連絡先

電話：(092)483-8832 FAX：(092)472-1959

- ・平日は17時15分から翌朝8時30分まで、休日は終日。
- ・上記以外の時間帯は各課室直通電話へご連絡下さい。

<http://www.mod.go.jp/rdb/kyushu/>